多機能型塗料施工費の1％

赤い羽根募金に寄付　川上塗装工業覚書に調印

盛岡市共同募金委員会（川村裕会長）と川上塗装工業（同市三ツ割、川上秀郎社長）は5日、赤い羽根共同募金寄付つき商品の販売に係る覚書を調印した。寄付つき商品・企画を販売し、売り上げの一部を募金することで地域に社会貢献する企業を募集する赤い羽根募金百貨店プロジェクトの一環。同委員会としては、2例目の寄付つき商品となる。

川上塗装工業の寄付つき商品は、同社が取り扱う多機能型の断熱セラミック塗料「GAINA（ガイナ）」を使用した施工費用の1％を同委員会に寄付する内容。役務的サービスを寄付つき商品にするのは、県内で初めてとなる。

調印式で、川上社長は「塗装業を通じて、子どもたちが20年、30年後に暮らし続けたい地域を実現していきたいと思っている。今回、赤い羽根共同募金との連携で、改めて地域に貢献できればと始めた。取り組みは始まったばかりだが、1円でも多く募金できるように頑張りたい」と寄付つき商品販売の経緯を話した。

同委員会の2020年度の募金目標は2930万円。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、街頭募金は10月1日の募金開始時の1回のみとなっており、寄付つき商品の販売など、新たな取り組みで募金につなげていく。

川村会長は「この取り組みを通じて、川上塗装工業、塗装の施工依頼者、共同募金の助成を受ける方々、委員会のそれぞれにメリットが生まれる関係性を構築することができる。企業の社会貢献活動を通じ、盛岡市の福祉をさらに良くすることにつながると考える」と感謝した。

寄付つき商品の覚書を調印した川上秀郎社長、川村裕会長（左から）

役務サービスの寄付つき県内初